

資料：「堀江物語絵巻」 文化財概要

ふりがな	ほりえものがたりえまき
文化財の名称	堀江物語絵巻
文化財の種別	有形文化財（絵画）
所在地	長野市松代町松代1015-1
所有者	宗教法人 長国寺 （住職 柴田 康裕） 住所：長野市松代町松代1015-1
年 代	寛永年間（1624～1644）を中心に前後十年程度
<p>1 指定基準</p> <p>『長野市指定有形文化財等の指定等に関する基準』</p> <p>第1 長野市指定有形文化財</p> <p>(1) 絵画及び彫刻</p> <p>イ 絵画及び彫刻史上又は歴史上、特に意義のある資料となるもの</p> <p>エ 特殊な作者、流派又は地方様式等を代表するもの に該当する。</p> <p>2 指定文化財の概要と指定理由</p> <p>(1) 作者及び絵巻の内容と特徴</p> <p>真田山長国寺に伝来する「堀江物語絵巻」は岩佐又兵衛勝以（1578～1650）、もしくはその工房の作である。古浄瑠璃を題材とした絵巻を複数伝来し、本絵巻はそのうちの「堀江物語」を詞書と絵により描いたものである。もとは一揃いであったが、現在は香雪美術館、京都国立博物館、個人などに分蔵されており、本絵巻も残欠本のひとつとして貴重である。</p> <p>「堀江物語」は下野の豪族である堀江三郎の子・太郎が、非業の死を遂げた両親の敵を討ち、家を再興するまでの物語で、本絵巻は物語のクライマックスにあたる末尾に該当する。金銀をふんだんにつかった極彩色で描かれ、驚異的な細密描写がひとときわ目を引く。</p> <p>(2) 形状、大きさ</p> <p>本絵巻は、もともとは二巻であったものを平成九年に修復し、一卷(33.6 cm×1343.8 cm)として表装し直したため、元箱と元表装の一部も共に伝来している。元箱蓋表には「普請絵軸之物」と墨書されており、本作品の伝来経緯を知る上で重要な資料である。</p> <p>(3) 伝来</p> <p>長国寺は松代藩真田家の国元における菩提寺であることから、真田家からの寄進品が多く残り、本絵巻もそのひとつと考えられ、真田家伝来の大名道具であった可能性がある。</p> <p>(4) まとめ</p> <p>岩佐又兵衛筆による絵巻群のひとつとして貴重であり、美術品としての価値も高いものである。</p> <p>3 指定までの経過</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・令和5年9月19日開催の令和5年度第1回長野市地方文化財保護審議会において、外部の学識経験者を招いて、調査を進めることを決定</li> <li>・令和6年7月26日に、跡見学園女子大学矢島新教授を招き、「堀江物語絵巻」の調査を実施</li> <li>・令和7年2月5日開催の令和6年度第2回審議会において、指定が適当であるとの答申</li> <li>・令和7年3月18日付けで長野市指定有形文化財に指定</li> </ul>	